

3月の植物

トキワガキ (トキワマメガキ) カキノキ科

Diospyros morrisiana Hance

暖地に生える雌雄異株の常緑小高木で高さ 8~10m、幹は黒くなり鱗片状に剥がれ落ちます。5~6月、新枝の葉腋に淡黄色の花が下向きにつきます。果実はリュウキュウマメガキより小さく直径 1.5~2cmの大きさで、11~12月に黄色くなり完熟すると暗褐色になります。渋みはあるが食べられるようです。漢字では常盤柿(常盤豆柿)と書き、落葉樹が葉を落とす冬場は観察しやすい樹木です。

1月30日、白岩運動公園一帯の植物を調査した際、メモにカキノキと記載していました。3日後にシイモチを確認に行ったときにメモしたカキノキを見て・・・あれっ?と思いました。カキノキは今の時期は落葉しているはずですが、常緑の葉を見て「トキワガキ」を実感しました。ここには2~3mの幼木が何本もあります。シイ林の中には高木のトキワガキが1本ありました。

トキワガキの大木が武雄神社の境内にあるので、双眼鏡で葉を確認したあと樹肌の写真を撮りました。実もついていたので雌木です。その後、白岩運動公園のシイ林の中をカキノキの葉がないか双眼鏡で確認したら今まで気づかなかったトキワガキが6本も見つかりました。まるでトキワガキの見本園のようです。3月25日の観察会は白岩運動公園で行います。是非お出かけください。

(小池英毅)



トキワガキの幼木



トキワガキの果実



トキワガキの樹肌